

昔は今日が成人の日

校長 武井 正明

昨日は、細雪の朝となった。一昨日は午後からの暴風で、車も吹き飛ばされるんじゃないかと思うほどの気象となった。新潟の冬はまだまだこれからが本番、気持ちを引き締めてかからねば。吉中の皆さんも登下校大変ですが、気をつけていきましょう。

そんなわけで家を早めに出ても、どうしても学校に着くのが遅れてしまう。でもそこで、とても嬉しい光景を目にした。

吉中校門前の横断歩道。

8時頃、電車から降りた大勢の吉中生が、横断歩道を渡る。

私は車を停める。ここの校長だから、全員が渡るのを待つのは苦でも何でもない。しかし、通勤の朝を急ぐ大人から見れば、これは運が悪いなと感じる方がいても仕方ない。

と、その辺の空気を読んで、すっと止まる女子生徒がいた。それが一昨日。感心した。そして昨日の朝。また同じ状況になった。

するとまた先日とは別の女子生徒が止まった。先日は雨、昨日は雪。出来るだけ早く校内に入りたい気持ちは皆同じ。彼女はきっと列の長さを考え、さり気なく止まった。

中学時代の自分なら、まずこんなことは出来ない。我先にと渡る。

普段からやっている彼女にしてみれば、校長、何を大袈裟な、普通ですよと言うかもしれない。でも私には相手意識の高い、品のある行いに見えた。きっと、こういう積み重ねが「美しい生き方」に繋がるのだろう。

昨日は急遽部活もなし、迎いの電話で、放課後の生徒玄関の電話には長蛇の列ができた。しかし、イライラしている生徒は全くおらず、皆友達と笑顔で時間を潰しながら順番を待っていた。

これも何気ない学校生活の一場面。

こういう心の余裕や気遣いを、お互いがちょっともつだけで、いろんな物事が滑らかに、穏やかに進んでいく。

昔で言えば、今日は成人の日（昔は1月15日で固定）だ。

ひと昔あったような、成人を何をやっても許されるものだと勘違いして、大酒飲んで大暴れ。警察のご厄介になるような不届き者は激減したようだ。

インタビューでも、親や周囲への感謝のコメントを、堂々と話せる新成人が多い。自分が二十歳の頃よりも、ずっと精神的に大人な二十歳が多くなった。

3年の皆さん、あと5年なんてあっというまですよ。どんな二十歳になっているかな